



# 言語技術教育

日本語の4技能を体系的に学ぶプログラムで、  
思考と論理の基礎を身につける

東京都・私立芝浦工業大学附属中学高校



写真上/中学2年次の最後には、4技能を総合的に発揮する活動として、ディベートを実施。  
写真下/短時間でもチームで相談して発言をまとめられるようになった生徒たちに、2年間の学習の成果が感じられる。

## どんな学び？

### 1 授業の内容は？

日本語の「話す・聞く・書く・読む」を鍛えるため、話型を学ぶゲームや話を聞きながら要点を書く活動などを行います。

### 2 育成を目指す資質・能力は？

明確な根拠に基づいて考え、どんな相手であっても、自分が伝えたいことを相手が分かりやすいように話したり、書いたりすることができる力です。

### 3 なぜ、この学びが必要？

本校の生徒の多くは、分かりやすく言葉で説明することが得意ではありません。しかし、社会に出れば、仕事でも生活でも他者との協働が必須です。対話を育む必要があると考えました。

## 話型の習得から始めて、 説得力ある伝え方を身につける

本校では、中学1・2年次に「言語技術」という、2コマ連続の授業を隔週で行っています。理工系教育が充実している本校には、数学や理科は得意であるけれども、対話や作文に苦手意識を持つ生徒が多い傾向があります。そこで、2009年度に、つくば言語技術教育研究所の指導に基づいて、日本語の4技能を体系的に学ぶ授業を始めました。カリキュラムの軸は、論理力・伝達力・分析力を育む活動です(図)。

### 図 「言語技術」で行う主な活動

#### 問答ゲーム

論理的な説明の仕方の1つである、「結論を言うから理由を説明する」という話型を身につけるゲームで、言語技術の土台となる力を養う。性質や具体例など、論拠を示す方法を加え、内容やレベルを上げながら活動を繰り返す。

#### 再話

読み上げられた文を聞きながらメモを取り、聞き終わった後、メモを基に話の内容を書き起こす。要点を捉える力、論理的な文章構成力を養う。

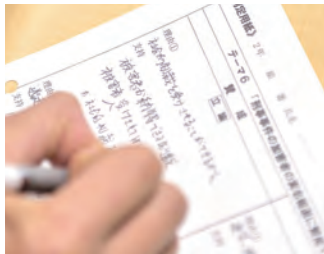
#### 情報伝達

多くの情報を相手に分かりやすく伝えるための方法を検討する活動。情報を分類・整理する力、全体から部分へと分かりやすく説明する方法を学ぶ。

#### 絵の分析

いつ、どこで、何をしているかなど、絵に描かれた内容を分析して表現する。根拠が明確であれば答えは無数にあり、観察力や分析力を磨く。

※学校資料を基に編集部で作成。



ディベートでは、判定の材料とするため、各チームの主張を聞きながら、その要点を書き留める。「再話」などで培ってきた力を発揮する場面となる。

を言うことから理由を説明するという話型を学びます。「私はAが好きです。なぜなら〜だからです」と型があることで、生徒は考えやすく、発言もしやすくなります。課題のレベルを徐々に上げながら、論拠を示す方法を加えて自分の考えを論理的に表現できるようにしていきます。「言語技術」では、言葉や表現を扱いますが、学習内容は国語というより実技教科に近く、練習の積み重ねが重要です。そこで、教師の説明は必要最小限にし、生徒が活動する時間を多く確保しています。中学1年次は、定型を用いて説得力ある発言ができるようになることが目標です。中学

2年次には、生徒が自分で型を選んで発言する活動を増やし、集大成としてディベートを行います(写真)。

## 他者の発言のよい点・改善点も 明確に指摘する生徒たち

授業では、明確な根拠を基にした思考・判断を徹底させ、「何となく」は認めません。自分の発言が聞き手に伝わることをあたり前と思わず、聞き手に甘えるような表現をしない意識を持つてほしいからです。それが浸透すると、聞き手になった時、他者の発言の優れている点や、説得力を増すために改善すべき表現などを指摘できるようになります。例えば、19年度中学3年生が卒業に際して行った、自分の将来について文章で表現し、発表する活動では、社会的な課題を批判的思考で見だし、それを将来自分がどのように解決するかを論理的に考えて説明できており、本授業の成果の表れを感じました。「言語技術」で培った論理力・伝達力・分析力は、問題解決のプロセスで求められる力でもあります。21年度、中学1年次から探究学習を実施する本校にとって、ますます重要な授業になると考えています。



言語技術科主任  
白鳥 新  
しろうり・あらた

教職歴10年。同校に赴任して4年目。国語科。

#### 学校概要

- ◎育成を目指す人物像は、「科学技術を通して世界に貢献できる技術者・研究者」。STEM教育や大学との連携教育、グローバル教育などを軸に、理工系教育に力を入れる。以前は男子校だったが、高校は2017年度に、中学校は21年度に共学化。
- ◎設立 1922(大正11)年
- ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 中学校1学年約160人/高校1学年約200人
- ◎2020年度入試合格実績(現浪計)  
国公立大は、宇都宮大、埼玉大、東京外国語大、東京農工大、横浜国立大などに18人が合格。私立大は、慶應義塾大、芝浦工業大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ202人が合格。

『VIEW n-express』では、  
同校の言語技術教育について  
さらに詳しく紹介!  
「ウェブで見学 学びのnext」  
もご覧ください

VIEW n-express

検索

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。